

8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4
5
6
7
8

印

七

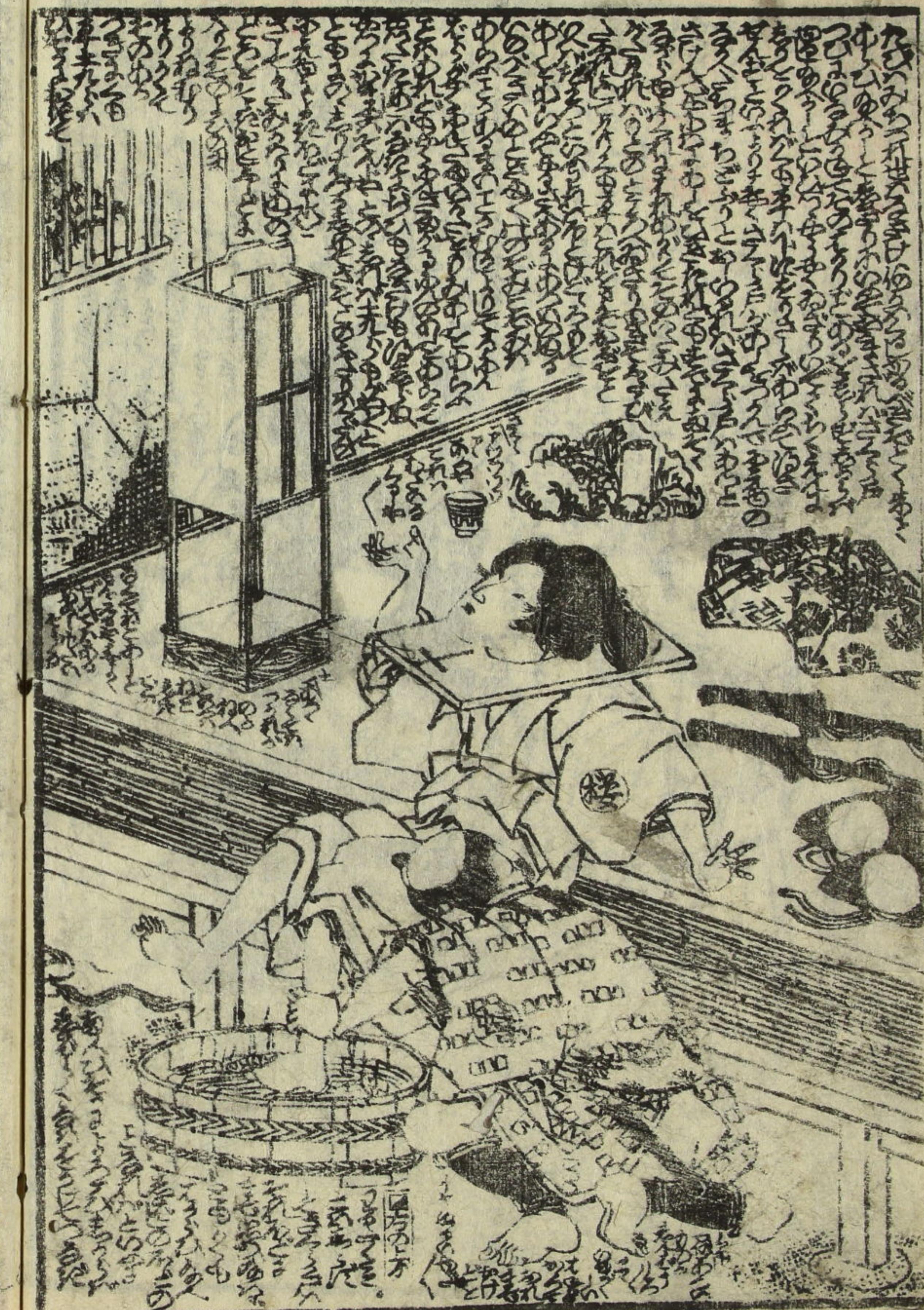
印

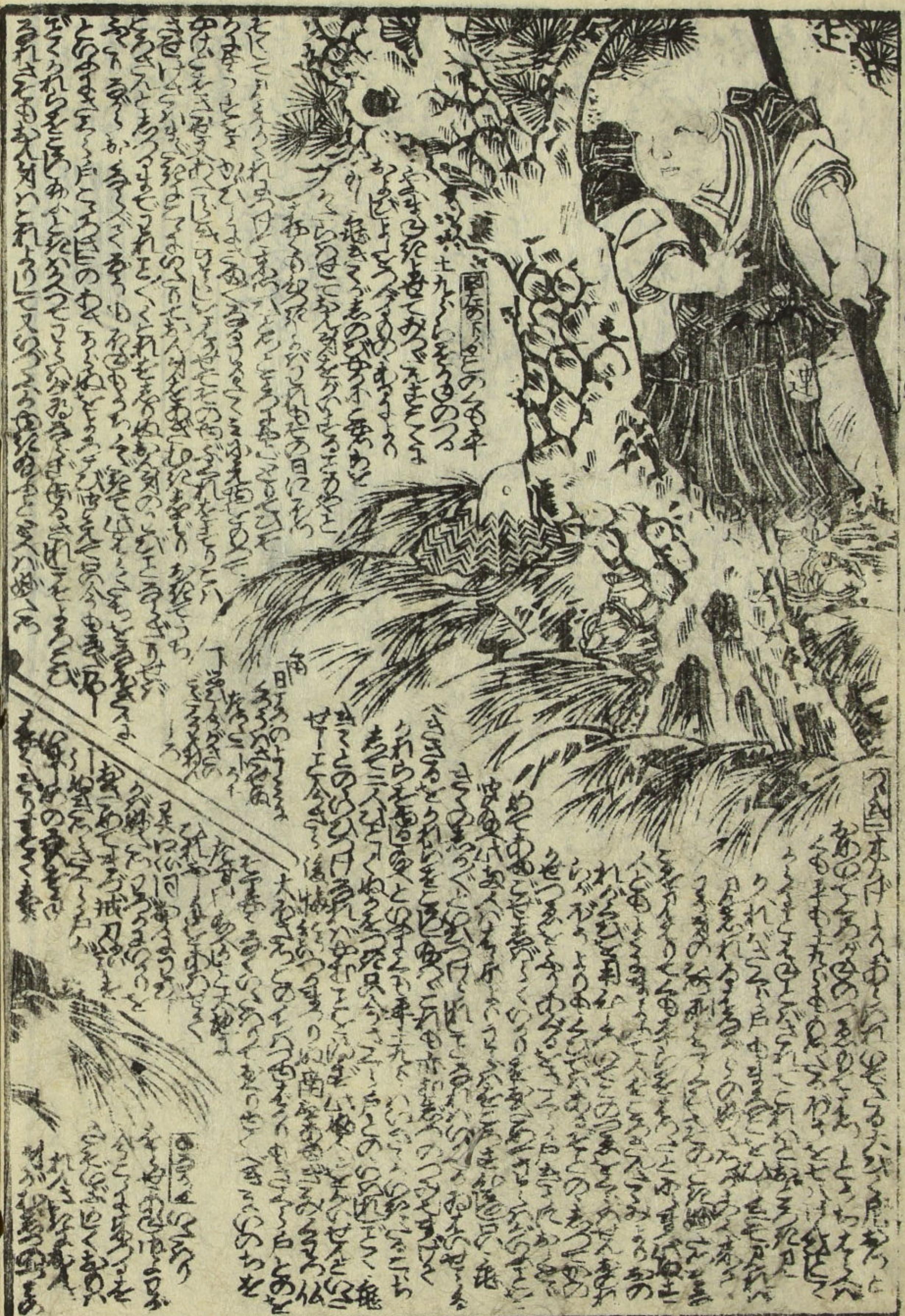


印

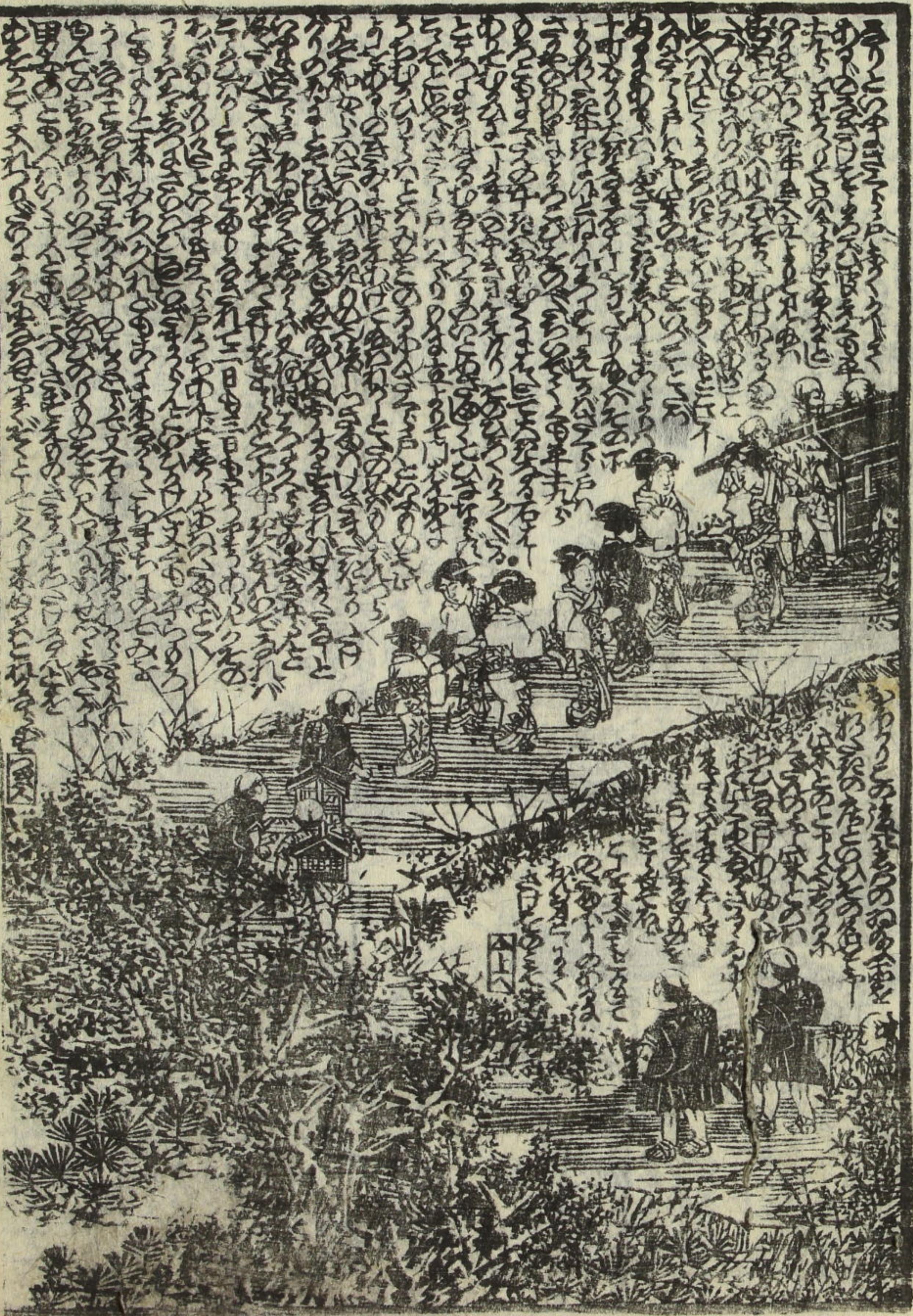
門號
3961
卷 5

5













大・サヘト・ハ・モ・一・ル用

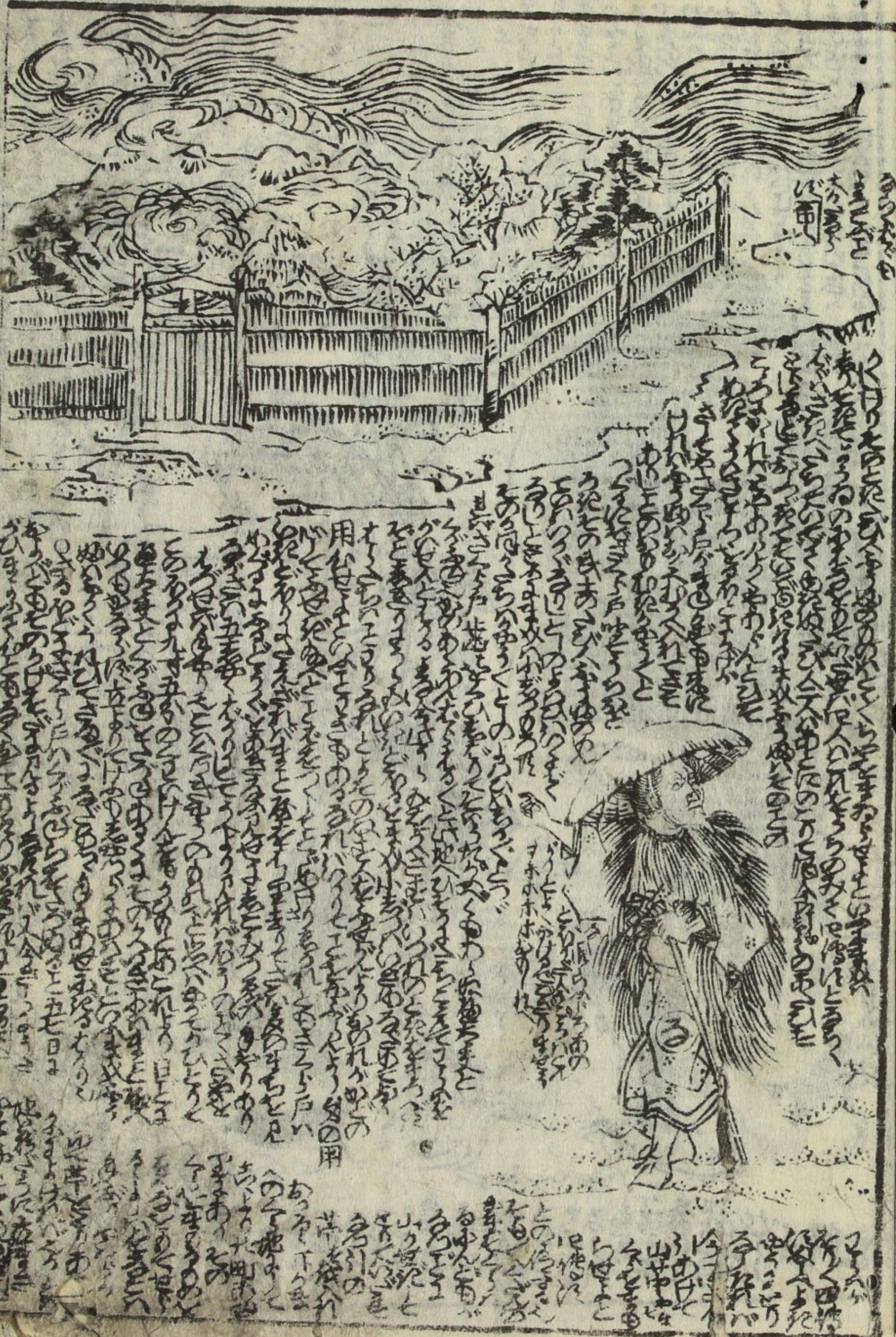


卷之三

卷之三

10







正三十庚寅春鶴屋喜右衛門板四

御免江戸曆開板所
載 陽 帖 全一冊 南山禪師書
撰 石摺 四季和文章



新撰 日本名所之繪 唐紙摺一枚 惠齋鍼形絹と真筆
新 女古状 榆園生竹 大紙本両品出来 高井蘭山編撰
撰 (はくし女古今川代をもひ已のゆすとく九五坤のへぎうるひの要安の去がくはく安文嘉
集めくはく行ひ公加く見女の交州ゆくみとくそ文子はくふ志高多き玉もう
幻住庵記引證 うやく風流かどりをもう諸君子もくはくとく書う
還塊絨料 柳亭種彦隨筆むじの没春娘女がんの筆がんの筆がんの筆
弘所 佐藤田中城下四方を店舗を賃貸
田喜庵輯 (大宮の和菴の紀元源解ともひて佛文方松利をもくにあく
右方三編三冊、多用の筆ひり動かのゆのよひは偏すゞ古董日物參考集解の事
妙編二編にひひのとくとも興わぐたぬほうくもとくを妙のすとくとく書う
蓑笠翁翁 隨筆 玄同放言 初編二編共二冊を蒙出西東の第三編三延刻

三
畝莊承木校輯
同
芳川集今
禁
蘭集人

開闢八州かび玉羽陸奥甲斐法流を亦小ま第中首の聖人を
内侍を下らばに萬國内之名の人々凡て會見來流花文書往来の傳令
故於今三百卷とあつて筆と墨の源也（眞跡にててありしむるなり）
追象形美（伊勢山）に至る尾流毛外西は並に西と中首の聖人
内侍を下らば萬國内之名の内會が（いは）ア文音付五傳令
刻放合二百卷（わづめ年）の源也（一傳より之）

童遊記
一
名
鳥羽繪
早
ま
か
び
出
來

廣益博中早害大全一冊上卷
塵劫記 懷新開染彩目 植化手引
前編出來已去人多之集
前北齊爲一筆後編嗣刻者
芝居少人後編全二冊上卷
也編少之者多之甚

役者久
彦兵和古
三冊王渡唐國
其西邊の名をもつて居る
拂天等をもつて居る
八文字自笑評
熱役者義序の玄元後公あり焉内と舞、因核に
三箇之津又_{タマツ}全_{タマツ}有入山後不相名_{タマツ}五年中三_{タマツ}のほね善伴前四_{タマツ}深

藝品定名言
相撲文後注解等とくお改め置やるを之の方にも
來宣月百名
相撲手本より云々出ゆる所を今後名を申しわせ
てゆく事あらむよりもほや空も後手を取下す
役者
相撲全一冊 等書ひりと相撲の形美かうて相撲手本よりもほ
や空も後手を取下す

東京傳 作
忠臣水滸傳 繪入冊 十冊
讀本 讀本
忠臣水滸傳 亂世の義士を豪傑水滸傳にて
忠臣水滸傳 亂世の豪傑水滸傳にて
忠臣水滸傳 亂世の豪傑水滸傳にて

史水滸傳
初編六編迄共三山東京山譯
十二冊賣出之垂古歌川國芳画
水滸傳劇場雜形初編鶴屋南北作
四冊歌舞川國貞重

祖
史水清傳
共三冊
五年十月
豪姫歌
川國芳
画
水許専
自家祭、雜
六歌川國芳画
画面のいろの
まきも三枝絆
色すら

日本三國志
繪圖
初編八冊出來
重刊一
譯
歌川國安画

